

目次

上方語編

近世待遇表現の構造と分類

一 待遇表現

1 名称

2 待遇表現の定義

3 待遇表現の問題点

二 待遇表現史上の近世語

1 待遇表現と時代（絶対敬語と相対敬語）

2 階級制度と待遇表現

3 対者待遇表現の発達

4 待遇表現の形式

三 近世待遇表現の諸相

目次

1 身分待遇表現

2 話手待遇表現

3 人に対する価値判定による表現

四 人に対する価値判定意識

1 自・他の識別意識

2 人と人との関係判定意識

3 待遇表現意識の厚薄

4 待遇表現意識の鋭鈍

5 自尊の表現意識

6 親愛表現意識

五 くくり（待遇表現の分類）

「お」ある」「お」やる」「やる」の変遷

——近世待遇語の変化の傾向——

一 古本能狂言集の用法

二 天草本伊曾保物語の用法

三 天草本平家物語の用法

四 江戸時代の用法

五 変化の傾向……………三

近世前期の終助詞の待遇表現……………三

一 終助詞と待遇表現……………三

二 研究法……………三

三 第三段階以下に使用のもの……………三

一 やこ……………三

二 はい(わこ)……………三

三 はいやい……………三

四 ぞよ……………三

五 が……………三

六 まとめ……………三

四 第二段階・第三段階に使用のもの……………三

一 まで……………三

二 じゃまで……………三

三 ののふ……………三

四 いの……………三

五 「いの」を含む終助詞……………三

六 え かい ぞえ……………三

七 「いな」とそれを含む終助詞……………三

八 「や」……………三

九 てや ぞや かや……………三

五 第二段階以下に使用するもの……………三

一 さ……………三

二 の……………三

六 全段階使用のもの……………三

一 ぞ……………三

二 な……………三

七 結び……………三

一 終助詞と待遇表現の段階との関係……………三

二 自愛表現……………三

三 終助詞の分類……………三

四 話手と聞手との関係の待遇表現……………三

命令形の接尾辞と終助詞の

「よ」「い」「いよ」……………三

一 問題点……………三

二 平常動詞の命令の形と

「よ」「い」「いよ」……………三

1 四段活用……………三

2 ナ行変格活用……………三

3 上1・上2段活用……………三

4 下1・下2段活用……………三

5 サ行変格活用……………三

6 カ行変格活用……………三

7 整理……………三

三 敬語の命令の形と「よ」「い」「いよ」……………三

1 (よ)ある……………三

2 おーなる(よ)……………三

3 下なる(よ)……………三

目次

江戸語編

江戸庶民語の待遇表現の体系……………三

——三馬の作品を中心として——

序説……………三

一 江戸語……………三

二 江戸語の諸相……………三

- 一 三馬の待遇表現 三〇六
- 二 研究法 三〇六
 - 一 単語として取り上げる方法 三〇六
 - 二 表現文脈より捕える方法 三〇六
 - 三 対応語発見 三〇三
- 三 対称の待遇表現 三〇三
- 四 男性語の対称の待遇表現 三〇六
 - 一 第一段階(最高敬語) 三〇七
 - 二 第二段階(普通敬語) 三〇三
 - 三 第三段階 三〇七
 - 四 第四段階 三〇七
 - 五 ののしり段階 三〇九
 - 六 男性語の対称の待遇表現の体系 三〇一
- 遊里のことばの体系の変遷 三〇三
 - 吉原の遊女のことばを中心として——
 - 一 「遊里ことば」と「遊女ことば」 三〇三
 - 二 近世初期の吉原の遊女のことば 三〇四
- 第一章 遊里のことば 三〇六
 - 一 廓ことば・遊里語・遊女語など 三〇六
 - 二 遊女ことば・遊里のことば・遊里語 三〇九
 - 三 遊里のことばの地理的範囲 三〇九
 - 四 本研究の焦点 三〇一
- 第二章 遊女ことばの変遷の大観 三〇三
 - 一 妓楼の特有語 三〇三
- 三 寛政期の遊女のことばの待遇表現の体系 三〇五
- 四 天保期の待遇表現の体系 三〇三
 - 1 天保の待遇表現の体系 三〇三
 - 2 具体的人間関係 三〇六
- 五 寛政期・天保期の「遊女のことば」の体系の比較 三〇九
- 六 結び(幕末の待遇表現) 三〇五
- 寛政期における遊里のことばの研究 三〇六
 - 第一章 遊里のことば 三〇六

- 二 吉原のことばの変遷 三〇四
- 第三章 「錦の裏」の待遇表現 三〇五
 - 一 待遇表現の型から 三〇六
 - 二 人間関係から 三〇四
 - 三 対者待遇語 三〇六
- 第四章 寛政期の吉原遊女語の待遇表現 三〇三
 - 一 「傾城買四十八手」「娼妓絹籠」の待遇表現 三〇九
 - 二 「北廓鶏卵方」の待遇表現 三〇四
 - 三 「傾城買二筋道」の待遇表現 三〇四
- 第五章 寛政期の「遊里のことば」の体系 三〇五
 - 一 遊里の女性語の体系 三〇五
 - 1 女性語(一)の体系 三〇五
 - 2 女性語(二)の体系 三〇八
 - 二 遊里の男性語 三〇八

吉原の「遊女のことば」の待遇表現
体系の変遷

- 一 寛政期の「遊女のことば」 三〇三
- 二 天保期の吉原の「遊女のことば」 三〇三
 - 1 はじめに(大まかな目安として) 三〇六
 - 2 春水の吉原「遊女のことば」の体系 三〇九
 - 3 寛政期と天保期の「遊女のことば」の体系の比較 三〇六
 - 4 幕末の吉原の「遊女のことば」 三〇三
 - 5 結び 三〇四
- 岡場所の遊女の対者待遇表現 三〇七
 - 一 国語史と対者待遇表現 三〇七
 - 二 叙述の糸口 三〇〇
 - 三 おぜんす 三〇一
 - 四 おざいす 三〇九
 - 五 おせへす おせいす 三〇二

六	ございやす	五六
七	ござへ(え)す	五〇
八	ございす	五〇
九	ござへ(ゑ)す	五三
十	ござんす	五六
十一	くゝり	五三
吉原の遊女の対者待遇語		
一	国語史と対者待遇表現	五五
二	遊里の対者待遇語	五七
三	くゝり	五〇

近世文語編

文語における主体待遇の助動詞・補助動詞

第一節 はしがき		
一	文語文のいろいろ	五三
二	文語の待遇表現	五四

三	なんじ(汝)	六三	
四	わたの(和殿)	六四	
五	わぬし(和主)	六八	
六	わごせ(和御前)	六三	
七	おこと(御事)	六七	
八	御辺	六四	
九	御分	六四	
一〇	第三段階所屬語	六五	
一一	そなた そなたさま	六五	
一二	其の方	六五	
一三	おのさま	六五	
一四	そさま	六四	
一五	そこ	六六	
一六	その他	六六	
一七	くゝり	六七	
略称・符号一覧(「国語待遇表現体系の研究」による)			六七
山崎久之教授略年譜			六八
山崎久之教授著書論文目録			六六

第二節 対称の主体待遇表現

一	せ給ふ させ給ふ	五七
二	給ふ	六一
三	御ある	五三
四	ある	五八
五	せらるる させらるる	五五
六	るる らるる	五九
七	その他	五九

第三節 「てたべ」の分類

一	たぶ	六三
二	給はる	六七
三	おたまはる	六八
四	たばせ給ふ	六八

文語における対称代名詞の待遇的研究

吉原		
一	はじめに	六一
二	御身様 御身	六三

あとがき	〔古田東朔〕	六九〇
編集覚書	〔小松寿雄〕	六九三
索引		六九三

近世待遇表現の構造と分類

筆者は近世語の待遇表現について一連の記述的研究を発表してきました。これらによって明らかにした待遇表現の事実に基づいて、その中にある近世待遇表現の本質について考察をまとめてみました。これは一応のまとめでありますから、これを一里塚として今後更に検討を加えていくつもりであります。皆さんの御教示がいただければ、まことに幸でございます。

一 待遇表現

1 名称

待遇表現を敬語（普通単語としての敬語と敬語表現の両者に使用する）と同じように使用する学者がある。したがって、これらの人は待遇語や待遇法も、敬語や敬語法と同じ意味に用いることもある。たとえば、古くは明治にさかのぼり、大関鶴麿の「待遇語考」（『国学院雑誌』明治36年7月・8月）を初めとして、小林好日『国語国文法要義』（一一七頁）や、「敬語法はまた待遇法ともいう」という東条操『国語学新講』（三五九頁）などこれである。

逆に敬語を待遇表現、待遇語と同義に使用するものもある。江湖山恒明氏の『国語教育辞典』（朝倉書店刊）の「敬語」